

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	教授	渡辺弥生
最終学歴	学位	専門分野
愛知医科大学大学院看護学部	修士	老年看護学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」というコンセプトをもとに一人一人の学びのニーズにこたえるよう学生とのコミュニケーションを大事にし、教育活動を行っていく。また「真面目」の校訓を意識し学生が誠実に学業に取り組むことができるように教育を進め、将来の生き方に反映できるように取り組む。

【目標】

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を念頭に、教科の目標の達成および資格取得（健康管理士）を促す。

- ・関心、興味のもてる講義を展開し、知識の定着を目指すとともに講義への出席率を高める。
出席することでの評価はしないが、出席したほうが学びがあると考えられるような方法で授業を展開する。
- ・人間健康学部で学ぶ意味は健康に毎日活動することであり、健康観を育み、知識を高める。また社会人となり知識を生かせるようにしていく。
- ・「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトを意識し一人一人の学生の思いを尊重し、目標が見えてくるよう関わることで、将来の目標が見えるようにする。
- ・学生に対してユーモアや親しみやすさを持ち、学生の立場に立ちつつ教員が「真面目」に取り組むことで学生にも自ら「真面目」に取り組む姿勢を持ってもらえるようにまた自信をもって、社会で活躍できるよう、「感じの良い態度」の育成を目指し関わる。
- ・「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を念頭に自らが謙虚にまじめに教育に専心する。

【方針】

授業では、真面目の取り組むことでの成果を示していく。学生の個人を尊重し有意義な学びの機会を提供する。

【計画（方法）】

授業は講義形式になることが多いが課題を多く取り入れ、互いにコミュニケーションが図れるようにしていく。ゼミではコロナ明けで課外活動の機会を取り入れる。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

基礎演習Ⅰ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅲ 環境保健論 養護概説 医学概論

（後期）

基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅳ 健康科学概論（2講座） 看護学 保育内容（健康）

○教育方法の実践

少人数の科目では、グループワークや演習を取り入れ授業を行った。

大講義室の授業では、欠席する学生もいるため資料へ書きこむ形式として、出席したほうが学びが深まるようその資料を持ち込み、テストを行う等工夫をした。

ゼミでは、少人数のため時差を設け一人一人の学生への論文指導を行った。そのため学生は積極的に個別指導を受け内容は学生なりに頑張った内容になっていたと考える。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

授業は、資料に工夫をしたことから学生の出席は良かったように思う。テストも持ち込みではあるが、授業資料をみないと解答が難しいような出題をしたことから、学生は、テストの際はギリギリまで粘って解答する姿勢が見られた。授業での工夫や関心を高めることはできた。しかしまだ授業内にスマホをみたりする学生は見られるので厳しい指導も必要かと考えている。

II 研究活動

○研究課題

「看護師の誇り」「沖縄の高齢者の環境と課題」

○目標・計画

【目標】

1. 現在日本看護管理学会へ投稿したが、修正が必要といううことであったので再検討中
2. 沖縄の高齢者の生活の実際を知り課題を検討する。今年度は文献調査と沖縄出身学生への聞き取り調査を行う。2025年1月倫理委員会の許可を得たのでデータ収集を行う予定

【計画】

1. 現在日本看護管理学会への投稿を行い、査読を予定している。
2. 沖縄県の高齢者の統計学的特徴、生活について検討し現状把握を行う。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・渡辺弥生 地域創造研究叢書 34 高齢者の保健・福祉・医療のパイオニア
「高齢者の認知症予防とケア—家族は何ができるのか—」 2020
- ・渡辺弥生 地域創造研究叢書 35 少子高齢社会のヒューマンサービス
「日本の少子化と看護の役割」 2022

(学術論文)

- ・渡辺弥生、森香津子、野口健太「3～4年目看護師の職業に対する誇りに関わる思い」看護管理学会投稿中
- ・渡辺弥生、柴田竹晴 看護学生と一般学生の健康習慣と健康観の比較検討 本学紀要投稿中
- ・渡辺弥生 養護概説の授業内容の検討 -少子化問題を理解するために-東邦学誌第 52 巻第 2 号 2023 12 月
- ・渡辺弥生 人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の健康習慣と健康観の状況 東邦学誌第 51 巻第 2 号 2022 12 月
- ・渡辺弥生、稲葉太香子「一般大学生の看護イメージ 最終講義後の調査」愛知県看護教育研究会第 24 回 2021

- ・渡辺弥生、竹下美恵子 「人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の医療イメージ」 東邦学誌第 48 巻第 2 号 2019
- ・渡辺弥生、稲葉太香子「一般大学生の看護イメージ-看護学の初回講義後の調査-」愛知県看護教育研究学会第 23 回 2020
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人学生の臨地実習での思い」愛知県看護教育研究学会第 22 回 (p23~29) 2019
- ・渡辺弥生、野口健太、柴田竹晴 「基礎看護技術テストにおける模擬患者体験をした卒業生の思い」愛知県看護教育研究学会第 21 回 (p32~37) 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における学生への欠席に対する指導 A 県内看護専門学校の教務主任の調査」 日本看護学会 (教育) (p43~46) 2018

(学会発表)

- ・渡辺弥生、森香津子、野口健太 3~4 年目看護師の職業に対する誇りに関わる思い 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023 年 8 月
- ・渡辺弥生、柴田竹晴 看護学生と一般学生の健康習慣と健康観の比較検討 第 17 回看護教育研究学会学術集会 2023 年 10 月
- ・渡辺弥生、竹下美恵子 人間健康学部で「医療概論」を履修する学生の—医療イメージ 第 28 回愛知県看護教育研究学会
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 医療職の常識と一般職の常識」 日本看護学会 (看護教育) 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 実習評価に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究学会第 7 回 2018

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

○所属学会

愛知県看護教育研究学会、看護教育学会、看護管理学会、老年看護学会

○自己評価

沖縄県の高齢者の統計学的特徴、生活について検討し現状把握を行う。

倫理委員会からの承諾を得たのでデータ収集を進めることができた点は良かったと考える。この後もデータ収集を行う予定である。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

保健の観点から学生と教職員の健診の実施、感染予防を感染対策委員会と共に実施する。

保健・学生相談センター長としてセンターの運営、役割を全うする。重点目標を達成するための課題を整理し実施計画を作る。解決策を実行する。

【計画】

- ・相談に関する問題やカウンセラーとの連携を密にしていく。合理的配慮学生への対応の実施する。守秘義務と学部への情報提供と連携を学生のプラスとなるよう行っていく。
- ・学生相談センターのスムーズな運営、環境整備の実施を行う。本年は医療機関との連携を実施

し、効果的な運用を行う。

○学内委員等

今年度は大学の相談室の大きな問題はなかった。一部の学生で入院などの問題があったが、大事には至らなかった。今年度より八事病院の協力を得て学生の月に1回医師によるアドバイスを受ける会議を実施した。この会議で相談室利用学生の受診の必要性、カウンセリングの方向性などを確認できた。また様々な事例に対し委員会のメンバーから意見、協力をいただき適切に運営できた。

○自己評価

昨年度は、医師との連携に向けた準備を行ったが、今年度は実践でき有意義な委員会活動となっている。自ら課題を訴えることができる学生は良いが、自ら訴えることができない学生への対応に今後は検討していく必要を感じる。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

1. ゼミ活動を活性化させる。以前より活動してきた献血への協力を行う。
2. 看護専門学校の教員が不足していることがあるため、できる範囲ではあるが講義など協力していく。

【計画】

1. ゼミにおいて日本赤十字献血センターの役割について講義を予定している。ゼミ活動の一環として希望者ととも献血協力を実践する。
2. 本務に影響がない範囲で、依頼された看護の授業を行う。
3. 愛知県看護教育研究学会の大会運営に協力する。
4. 日本老年看護学会への参加

○学会活動等

自らが理事を務める愛知県看護教育学会の運営には努力した。

○地域連携・社会貢献等

ゼミ活動では今年度も献血について日赤の協力を得て外部講師として話をさせていただいた。

○自己評価

献血について関心を持ってもらうことはできたが、実際に献血できたかは把握していない。現代の学生はあまり積極的ではない（痛みを伴う）。すぐ結果は出なくても医療職として考える機会を提供していきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

学生の活躍を応援する。部活動の試合を観戦する。

VI 総括

講義についてはまだまだ工夫点はあるので考えながら進めていきたい。ゼミの満足度はそれなりに高いと思うが、学生の意向を踏まえた活動を行っていきたい。委員会については自分なりに努力で来ていると考える。研究については2023年度に比較し、できていないので今後は前向きに行っていきたい。

以上